

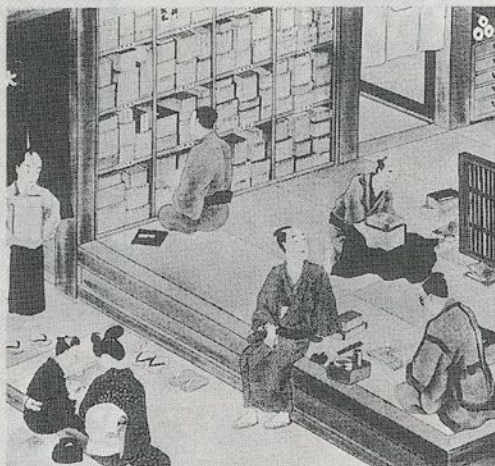


偉人 坪内逍遙

若き日の逍遙

明治2年、名古屋へ移住後、逍遙は寺子屋へ通い習字や四書五経を学びました。ひまがあると大惣（大野屋惣八）という貸本屋へ行き草双紙くさごうしや小説類を山ほど借りては一日中読みふけていました。晩年になっても大惣のことを夢に見る程で、大惣は「心の故郷ふるさと」であつたとなつかしんでいました。

また、母や姉の影響で観劇にも興味を持ち、明治という新時代に、続々と名古屋に出来た劇場へ出掛け、演劇に深い感銘を受けました。



貸本屋大野屋惣八店頭図